

令和8年度 杉並区立西宮中学校 学校経営計画 【概要版】

杉並区立西宮中学校
校長 立花 忠司

＜杉並区教育ビジョン2022＞

私たちが大切にしたい教育 みんなのしあわせを創る杉並の教育

I 共に尊重し大切にしたいこと

- ◇学び合い、信頼をつくり、共に生きる ◇ちがいを認め合い、自分らしく生きる
◇誰もが社会の創り手として生きる

II 一人ひとりが教育の当事者として心がける視点

- ①子どもの思いを尊重する ②ちがいを受け入れる ③対話を大切にする
④学びの成果を贈り合う ⑤社会を創る当事者として考える

＜杉並区子どもの権利に関する条例 基本理念＞

第3条 全ての子どもについて、差別的取扱いを受けることがないようにすること、その意見を尊重すること、その最善の利益を考慮すること及びその健やかな成長が図られることを基本理念として行われなければならない。

＜教育目標＞

◎心豊かな人（徳） ○自ら学ぶ人（知） ○健康な人（体）

＜目指す学校像＞

- ・コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校 *地域学校協働活動の推進
- ・一人ひとりの生徒が自らのよさを発揮し、活躍する学校
- ・安心・安全で、毎日がわくわくする学校
- ・ちがいを認め、互いを尊重し、切磋琢磨する学校
- ・地域・保護者と相互理解を行い、積極的に協力・協働することで、教育力を発揮する学校
- ・生徒と教職員がともに人権感覚を磨き、自信と誇り（西宮プライド）をもってともに成長する学校

＜目指す生徒像＞ 徳・知・体のバランスのとれた生徒の育成

（1）可能性に挑戦する生徒の育成

学校のあらゆる教育活動を通して、夢や希望、志をもち、その実現に向けて、より主体的・能動的に自らの可能性に果敢に挑戦しようとする生徒を育成する。失敗を認め、再チャレンジの機会を保障し、互いに高め合うことができる生徒を育成する。

（2）自ら考え、行動できる生徒の育成

答えのない問題に対して、その問題をどのように解決していくかを考え、行動できる生徒を育成する。また、問題に対する最適解を見つけ、解決するために自ら行動できる生徒を育

成する。

(3) 思いやりの心とたくましく生きる力をもつ生徒の育成

学校の教育活動全体を通して、他者を思いやる優しい心とたくましく生きる力をもつ生徒を育成する。不断の努力で心身を鍛え、粘り強く取り組む生徒を育成する。

<今年度の具体的な取組>

(1) 道徳教育の充実

「考える道徳」「議論する道徳」の授業を通して道徳的価値について考える。特に自己と他者の存在や思いを尊重する態度を育成する。すべての教育活動において、人間としての生き方について考えを深め、道徳的な判断力、信条、実践意欲と態度を組織的に育てる。

(2) 学力向上の推進

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成を図る。各教科において、学ぶ楽しさが実感でき、主体的・対話的で深い学びがある授業を行う。特に書く力や話し合う力の育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた探究的な学習活動を行う。

(3) 教科横断的な学びの推進

総合的な学習の時間における学習を核として、SDGs の視点と多様な体験活動を取り入れた教科横断的な学習や探究的な学習を推進する。学年ごとにテーマを設定し、これらの学習によって、自ら学ぼうとする力や課題を解決する力、さらに主体的に行動する力を身に付けさせる。

(4) 小中一貫教育の推進

高井戸第二小学校、松庵小学校と、学びの連続性・系統性を重視した小中一貫教育を推進する。合同研修会等を通して、教職員のつながりをつくるとともに、学習者が主体となる授業づくりなど、小学校で培った学びの継承・発展に取り組む。各校が抱える教育課題を共有し、解決に向けた取組を行えるようにする。

(5) 地域・家庭との協働による教育活動の推進

学校運営協議会、学校支援本部、青少年委員や保護者等と連携した教育活動や地域行事、ボランティア活動等を通して、生徒が学校や地域における自己の役割と責任を自覚し、地域社会に貢献しようとする態度を育成する。

(6) 情報活用能力、課題解決能力、情報モラルの育成

すべての教育活動において、生徒の一人一台タブレット端末等の ICT の効果的な活用を行う。ICT や学校図書館の活用による情報活用能力と課題解決能力の育成を図る。また、情報モラルを身に付けさせ、インターネット環境におけるデジタル機器の適正な利用ができるようにする。教育活動の質を向上させるための校務 DX を推進する。

(7) 体力向上と健康教育の推進

体力調査等の結果に基づいた課題別指導による体力向上と、自己の健康に関心をもち、将来にわたって健康を維持・増進させるための健康教育を推進する。

(8) 特別支援教育

支援が必要な生徒について、一人ひとりの教育的ニーズを把握するとともに、校内委員会を中心とした全教職員による共通理解と組織的な取組を行うことで、生徒の能力を引き出し、伸ばすように支援する。

(9) 教育相談

いじめ等の問題行動や虐待、不登校生徒への対応について、一人ひとりの心理的・家庭的な要因を踏まえた生徒理解に努めるとともに、未然防止や早期対応を組織的に行えるように、教育相談機能を充実させる。学校いじめ対策委員会を月1回開催し、いじめの未然防止と早期発見・対応を組織的に行う。

不登校生徒に対して、オンライン授業や校内別室対応事業(学校内の居場所づくり)など、学びの保障と学校とのつながりを絶やさないための多様な機会を提案し、実施する。

(10) 安全管理と安全・防災教育

重大事故の未然防止及び安全管理の徹底を行う。教職員及び家庭、地域と連携した計画的・継続的な安全教育を実施する。特に震災救援所運営連絡会との協働による防災教育を通して、自他の命を守るための行動ができる生徒を育成する。

(11) グローバル教育とボランティア教育

東京オリンピック・パラリンピック2020のレガシーとして、国際社会の多様な文化を理解し、共生しようとする態度とコミュニケーション能力を高めるとともに、日本人としての自覚と誇りの涵養に努める。ボランティア・マインドの醸成とボランティアへの積極的な参加を促す。

(12) 外部人材を招聘した授業の充実

地域・保護者をはじめとする外部人材を招聘した授業や外部団体、関係機関等の協力による授業を充実させるとともに、社会とのつながりを重視した教育活動を行う。

(13) 教育のさらなる質の向上

「全校研究学校」の実施を通して、教師の探究的実践力を向上させ、教育のさらなる向上を目指す。校内研究体制の強化と計画の立案、実施を行う。全教員が授業研究等を行うとともに、学力調査や教育調査、授業アンケートに基づいた授業改善を行う。

(14) 教職員の働き方改革

ライフ・ワークバランスの意識を高め、校務での ICT の利活用（校務 DX）を一層推進し、効率的・効果的な職務の遂行を行う。学年・分掌における業務の平準化を進め、時間外労働時間の縮減を行う。

<目指す教職員像> 「チーム西宮」 同じ方向を向いて、協力して職務を遂行する組織

- (1) 可能性に挑戦する教職員
- (2) 人権意識をもち、相手への敬意をもって接する教職員
- (3) 子どもの声に耳を傾け、寄り添い、共感する教職員
- (4) 授業を大切にする教職員(プロとしての自負心と授業力向上を図る自己研鑽への意欲)
- (5) 生徒や地域・保護者の方々と良好な人間関係をつくる人間味にあふれた教職員
- (6) あらゆることに気づき、行動できる教職員（アンテナの感度を高く）
- (7) 公務員として、全体の奉仕者であるという自覚をもった教職員